令和６年度第３回　瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会

ステップアップ・市民活動事後評価及び市民活動事前審査　議事録

日　　時：令和６年９月１０日（火）　午後６時００分から午後８時５０分

場　　所：瑞浪市役所西分庁舎　１階会議室

出 席 委 員：山内　正雄（委員長）、辻本　紀み子（副委員長）、富田　宏、柴田　洋子、
谷本　陽子、大宮　康一
※委員６名中６名の出席であり、委員の過半数の出席となり、瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会規則第６条第２項の規定により、本会議は成立。

事　務　局：瑞　浪　市　長　水　野　光　二
みずなみ未来部長　正　木　英　二

事務局職員：市 民 協 働 課 長　奥　谷　ひとみ
まちづくり支援係長　中　筬　高　弘
まちづくり支援係　大　髙　まりあ

次　　第：１．市長あいさつ
２．委員長あいさつ
３．審査会の進行等についての説明
４．活動報告（事後評価）
（１）令和５年度夢づくり地域交付金　ステップアップ事業　実施報告（釜戸町）
（２）令和５年度夢づくり市民活動補助金　実施報告（３団体）
５．審査
（１）令和６年度夢づくり市民活動補助金　審査（追加募集分）
６．閉会

【１　市長あいさつ】

市長あいさつ

本日は、令和６年度第３回夢づくり地域交付金等審査会にご出席いただき、ありがとうございます。本日の審査会では、これまで実施してきた事業の評価に関する審査と、新たな事業に対する審査をお願いすることとなります。委員の皆様には、ぜひ慎重なご審議を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

本日は、せっかく皆様にお集まりいただいておりますので、瑞浪市内の事業者の皆様が挙げられた成果を紹介させていただきます。

１つ目は、釜戸町にあるクラフトビール工房「カマドブリュワリー」についてです。同工房を営む東さんは、東京から U ターンされ、地域の活性化にも尽力していただいております。このたび、全国のクラフトビール醸造所が出品し、日本一を競う「ビアワングランプリ」において、総合優勝を果たされました。また、ストロングビール部門においても金賞を受賞されました。熱い思いを持って瑞浪に戻られ、工房を拠点として釜戸町のまちづくりにも力を注いでいただいております。移住・定住の取組においても、空き家を活用し、喫茶店を開く方を誘致するなど、地域の皆様と協力しながら活躍されています。

２つ目は、山田町で養蜂業を営まれている堀養蜂園についてです。同社が生産する蜂蜜が、「ハニー・オブ・ザ・イヤー」において最優秀賞に輝きました。あわせて、会場の来場者による評価においても、来場者特別賞を受賞されました。堀養蜂園は、山田町で「蜜や」というお店を営まれ、地域の花にこだわった蜂蜜づくりに取り組んでおられます。

さらに、「地方公務員アワード 2024」において、本市の市民協働課の取組が評価され、伊藤允一さんが代表して受賞しました。この賞は、全国の自治体で活躍する地方公務員の取組を評価するものです。伊藤さん個人のアイデアはもとより、「ミライ創ろまい課」をはじめ、多くの職員が協力して進めてきた様々な取組が総合的に評価されたものと受け止めています。

本日、夢づくり地域交付金の事業に取り組んでいただいている皆様も、こうした賞に匹敵するほど、地域のためにご活躍いただいております。審査に当たっては厳正なご審議をお願いする一方で、皆様の取組をしっかりと評価し、励ましていただければと思います。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

【２　委員長あいさつ】

ただいま市長からご紹介があり、瑞浪市には大変素晴らしい取組や活躍が数多くあることを、改めて感じました。

本日は、令和 5 年度夢づくり地域交付金ステップアップ事業の事後評価、ならびに市民活動事業の事後評価を行います。加えて、令和 6 年度市民活動補助金の追加募集に係る審査も予定しております。委員の皆様には、それぞれの事業についての感想や助言、疑問点などを積極的にお寄せいただきたいと思います。厳正な審査を行うとともに、事業に取り組まれる皆様への激励の気持ちも込めて、ご発言をいただければと思います。本日はよろしくお願いいたします。

【３　ステップアップ事業、市民活動事業の審査会の進め方、申請状況等について】

≪事務局より説明≫

～質疑なし～

【４　活動報告（事後評価）】

≪①各団体からの事業説明≫

～省略～

≪②質疑・意見交換≫

釜戸町まちづくり推進協議会（以下「釜戸」）

〇委員

家族で利用し、遊具や自然環境を楽しむことができた。一方、駐車場から入口へ向かう坂道が乾燥時に滑りやすく危険に感じたため、安全点検をお願いしたい。

●釜戸

当該箇所の危険性は認識しており、滑り止めとなるストッパーを設置する対応を進めている。

〇委員

ふれあい館の来館者数は、どのような方法で把握しているのか。

●釜戸

カウンターを用いて来館時に人数をカウントしている。

〇委員

現在の熱意ある運営を将来へ引き継げるよう、世代交代や人材育成を進めてほしい。

●釜戸

研修や教育を継続し、来館者からの質問にも対応できる人材を育成する。ウォーキングコースのガイドマニュアルも作成しており、今後もスキルアップに取り組む。

〇委員

中学生・高校生が自然に親しみ、施設を利用する機会を増やす仕組みづくりが必要ではないか。

●釜戸

北中学校の生徒を対象に、ロッククライミング場での体験活動を予定している。専門指導者を配置し、参加生徒を受け入れる準備を進めている。

〇委員

市内利用者を増やすことは、将来の担い手づくりにもつながる。ロッククライミングは高校生の利用も想定してはどうか。

●釜戸

コミュニティーセンターや市役所本庁舎でふれあい館の展示を行っている。今後も各地区で継続的に

展示を実施し、施設の PR を強化したい。

〇委員

「冒険の森」は全国各地の民間施設でも使用されている名称であるため、他施設と混同しないよう工夫が必要ではないか。

〇委員

写真を見ると、一の滝の水量が以前より少ないように感じた。

●釜戸

水量は雨期・乾期や季節により変動する。水量が少ない時には流れる水の形が観音様のように見えることがあり、日差しの条件によっては虹も見られる。

＜市長コメント＞

計画に沿ってステップアップ事業の予算を有効に活用し、審査員から評価を得られる成果につなげていただいた。本事業は「竜吟峡の森のゆうえんち」をテーマとして実施されたものであるが、ふれあい館においても、専門家を招き、竜吟峡の自然を題材とした各種講座を開催している。1 回当たり 10 人から 20 人程度の参加者があり、自然に関する学習の場として活用されている。中学生や高校生については、ふれあい館における自然学習の機会を一層充実させることで、幅広い世代が竜吟峡全体を活用できるのではないかと考える。森のゆうえんちは子どもたちの遊びの場として、ふれあい館は自然を学ぶ場として、それぞれの特色を生かした活用を進めてほしい。

（釜戸）

近年、ふれあい館には若い世代の来館者が多く、年配の来館者を上回ると感じることもある。また、外国人の来館者も見られる。

（市長）

今後も施設の活用を一層進め、より多くの方に訪れていただける竜吟峡としていくことを期待する。

瑞浪暮らしの彩りマーケット実行委員会（以下「彩りマーケット」）

〇委員

以前より会場の足元が明るくなり、高齢者も安全に歩ける環境になっていた。出店者・来場者が増え、会場が手狭に感じられるほど盛況であった。昼間とは異なる夜間の化石公園の特別な雰囲気を、毎回楽しみにしている。

〇委員

設置したチェア等は、市民同士の交流にどのようにつながったか。出店が充実しているため、来場者の滞在時間を延ばす休憩・飲食スペースが必要である。また、出店者用駐車場についても、適切な場所を確保する必要がある。

●彩りマーケット

チェアは自由に利用できるよう配置した。子ども連れや高齢者を含む来場者に自然に利用され、8月の映画上映時には、座ったり寝転んだりできる空間が好評であった。交流の程度は把握できていないが、休憩スペースの必要性は認識している。今後は、座って飲食できる場所を充実させたい。一方で、出店者数の増加により会場スペースの確保が課題となっている。既存のステージなど公園施設も活用しながら会場づくりを進める。

○委員

開催を重ねるごとに盛況になっている。若い子育て世代だけでなく、シニア層を含む幅広い世代が楽しめるマーケットとしてほしい。

○委員

イベントサポート費305,000円の内訳は何か。

●彩りマーケット

主にナイトマーケットにおける電気設備関係の経費である。規模の拡大に伴い、配線や漏電対策、雨天時の安全管理など、自主対応が困難な部分について専門事業者に依頼している。

○委員

新聞折込、チラシ、SNSなどの広報手段のうち、最も効果を感じているものは何か。

●彩りマーケット

新聞折込は特に地方において効果が高く、チラシを持参して来場する人も多い。開催日の2、3日前に折り込んでいる。若い世代や子育て世代に向けてはInstagramを活用している。新聞折込とSNSを使い分け、幅広い世代に情報を届けている。マーケットは対象世代を限定せず、3世代が来場できる場を目指している。

○委員

「暮らしの彩りナイトマーケット」と「暮らし整うマーケット」について、それぞれの目的に対する達成度はどの程度か。

●彩りマーケット

ナイトマーケットは、5年間の取組の積み重ねにより、達成度は8割から9割程度に達している。毎回内容を更新しながら、大きな成果を感じている。一方、「暮らし整うマーケット」は立ち上げ段階であり、集客や出店者支援に課題がある。最終的には、リユースの促進を通じて市内の粗大ごみを減らすことを目標としている。現時点の達成度は10%程度である。

＜市長コメント＞

大変素晴らしい企画を実施していただき、感謝している。代表者は刈谷市出身で、瑞浪市とは直接のつながりがなかったが、ご縁があって瑞浪市を気に入っていただいた。現在は、市職員や若い世代の皆さんとも一緒になって、地域を盛り上げていただいている。

彩りマーケットは、まちの活性化に大きく貢献するイベントに育ってきていると感じている。市としても応援したいと考え、必要なことや要望があれば相談してほしいとお伝えしている。主催者の皆さんが気持ちよく準備し、来場者にも安全・安心に楽しんでいただくためには、主催者の皆さんのアイデアや要望を大切にする必要がある。一方で、主催者や出店者の皆さんからは、自分たちで工夫して取り組むため、市による大がかりな設備整備は必要ないとの意向をいただいている。

また、夜間に公園を貸し出す自治体は少ないと伺った。夜間の公園は閉鎖されることが多い中、瑞浪市では市民公園を活用していただいている。この取組を通じて、より多くの方に市民公園を利用していただきたい。今後さらに取組が発展し、「瑞浪市では面白いことをしている」と市外・県外の方にも感じていただき、多くの方に来訪していただけることを期待している。

美濃源氏大太鼓保存会（以下「保存会」）

〇委員

子どもたちが楽しく、また適度な指導を受けながら体験できた。太鼓をたたく機会は少ないため、有意義な取組である。今後の企画や展望を伺いたい。

●保存会

公民館や文化センターと連携し、子ども向けに加え、一般向け太鼓教室の開講も検討している。保存会の会員が減少しているため、チラシや文化祭等を活用して周知し、会員確保につなげたい。

〇委員

参加費１人 1,000 円の使途を伺いたい。

●保存会

バチの購入費である。半額を保存会、半額を参加者が負担し、体験後にはバチを子どもたちへ渡している。

〇委員

参加費の負担は、物を大切にする意識にもつながる。一方、予算額に比べ実績額が少ないため、今後は参加費の設定も検討してはどうか。

●保存会

初めての取組であり、試行錯誤しながら実施した。予算については、もう少し活用してもよかったと感じている。

〇委員

子どもたちは将来の後継者となり得るが、当面は一般の方にも参加いただき、仲間を増やすことが組織の継続・強化につながる。一般向けの募集・周知にも取り組んでいただきたい。

●保存会

太鼓は実際に触れ、叩くことで魅力が伝わる。また、皆で演奏をつくり上げる楽しさもある。今後はチラシ等で周知し、会員確保と保存会の継続に取り組みたい。

＜市長コメント＞

長年にわたり、商店街を中心に地域を盛り上げる活動に取り組んでいただいていることに、敬意と感謝を申し上げる。今回の取組は大変意義深く、報告のとおり成果も表れていると感じる。

近年は、野球やサッカーなどの活動に参加する子どもが減少する中、このような活動に関心を持つ保護者や子どもも多いのではないかと思う。礼儀や協調性を学ぶだけでなく、グループごとにリーダーを置くことで、子どもたちのリーダーシップを育む工夫もされている。単に太鼓の演奏技術を身に付けるだけでなく、子どもの育成を視野に入れながら、皆で演奏をつくり上げる取組であると感じた。

保存会においては、会員の確保に努めながら、太鼓教室を通じた子どもたちの育成と活動の継続に、今後も尽力いただきたい。

子どもの食と未来を考える会（以下「考える会」）

〇委員

オーガニックは重要であり、良いものだとは理解している。しかし、自分の生活に取り入れるには、まだ少しハードルが高いと感じる。

前回、瑞浪市内でもオーガニックで米を作る農家がいると聞いた。今回のマルシェの出店数と、出店者に市内の農家がどの程度含まれていたのかを伺いたい。

●考える会

出店数は 20 店舗であり、野菜や米に限らず、取扱品目はさまざまであった。開催は昨年 9 月 17 日で、暑さのため野菜が少ない時期でもあったが、5 月に開催した際は、今回の約 2 倍の出店があった。開催時期によって参加者数は異なる。市内には、当保育園と提携する農家が 6 軒あり、米農家も別にある。また、多治見のマルシェなどに出店する農家も参加した。オーガニックの出店者間では、LINE グループなどを通じたつながりが広がっている。開催情報を発信すると、参加希望者が集まる状況である。近年は各地でこうした場が増え、オーガニック野菜も身近で購入しやすくなっていると感じる。

〇委員

この活動は、将来的に瑞浪市の子どもたちの給食につなげることを目標としているのか。例えば、給食費が無償化された場合、その分を食材費に充てることもできるのではないか。

●考える会

給食の無償化を目標としているわけではない。瑞浪市に限らず、子どもや家族の健康を守ることを目標としている。オーガニックは健康面だけでなく、地球環境や土壌の改善にも関わる。私たちも学ぶ中で、その重要性を知った。できるだけ安全性に配慮したものを選び、子どもたちに安心して食べられる、おいしい食べ物を提供できるようになればよいと考えている。

＜市長コメント＞

私も国光美佳先生の講演を拝聴した。現在はオーガニックに注目が集まっているが、まず大切なのはミネラルであると感じた。ミネラルを摂取するためには、オーガニックの野菜なども有効なのではないかと思う。特に、子どもは体が小さいため、わずかなミネラルの不足が大きく影響するという話には驚

かされた。講演後のアンケートからも、多くの参加者に気づきがあったことがうかがえる。

まずはミネラルの大切さを多くの保護者に理解していただき、家庭でミネラルを含む食事をつくっていただくことが重要である。その先に、オーガニックの野菜や米の選択があるのではないか。その点を意識して企画していただきたい。

ワークショップで取り上げられた味噌玉もよい取組である。味噌は日本古来の優れた食品として知られているが、ミネラルを多く含み、子どもの成長にも関わることを理解している保護者は、まだ多くないと思う。参加者には、その重要性を実感していただけたのではないか。活動はこれからであるため、ぜひ継続し、一人でも多くの方に知っていただきたい。

給食への活用については、市としても実現できればよいと考える。一方で、コストや安定供給の面では課題がある。米や野菜を継続的に供給できる生産者が、現時点では十分にいるとは言えない。この活動を通じて生産者が増え、生産量が上がり、コスト低減につながることも重要である。多くの方の気づきにつながるよう、今後も補助金を有効に活用し、講演会やマルシェなどの取組を継続していただきたい。

【５　審査】

≪①各団体からの事業説明≫

～省略～

≪②質疑・意見交換≫

子どもの食と未来を考える会（以下「考える会」）

〇委員

せいわ保育園は、市内の保育園に先行してこのような取組をしている。他園の園長との話し合いでは、同様の取組を広げようとする動きはあるのか。

また、子どもだけでなく、大人に対しても食生活の改善を働きかけているのか。

●考える会

園長会にも参加しているが、共感や関心を示す園長はいる一方、取組として声を上げることには難しさがあると感じる。主任会での食育講演では、オーガニックやミネラルという言葉は出なかったが、できるだけ手づくりの給食を提供したいという意見があった。予算面などの課題もあり、実践にはハードルがある。

大人への働きかけとしては、保護者に食生活の見直しを呼びかけている。ご飯とみそ汁を中心とした朝食や、ミネラルを意識した食事に変えた保護者から、体調面の変化を感じたという声を聞いている。園児についても、元気に過ごす子が多いと感じている。

〇委員

オーガニック食品とは、化学肥料や農薬等を使用していない食品という説明があった。せいわ保育園の給食やおやつは、100%オーガニックなのか。

●考える会

100%ではないが、できる限り近づけるよう努めている。調味料はできるだけ原材料に配慮したものを使用し、加工品や添加物のある食品は極力使わない。おやつは週 5 日のうち大半を手づくりとし、市販品を使う場合も原材料を確認して選んでいる。

〇委員

コスト面から、すべてを切り替えることは難しいと思う。限られた給食費の中で、どの程度オーガニック食品を取り入れているか、頻度や割合を数値で示すことも必要ではないか。

●考える会

オーガニック給食と呼ぶようになった大きなきっかけは、主食の米を完全無農薬のものに切り替えたことである。生産者と提携し、提供を受けている。

野菜も、できるだけ農薬等を使用していない生産者から購入している。地元で確保できない場合は市外や宅配も活用している。

有機認証には、農地の使用履歴や周辺農地からの飛散など、多くの条件がある。そのため、農薬を使わずに栽培していても認証を取得していない生産者もいる。表示にも課題があり、市民が日常的にオーガニック野菜を選ぶことは容易ではない。

〇委員

説得力のある説明だった。取組が広がれば、関心の有無を問わず多くの人が集まる場で話す機会ができるとよい。

実施計画書では会費を「無」としているが、収支計画には会員積立資金 4 万 6,000 円がある。この資金はイベントに向けて積み立てたものか。

●考える会

勉強会の参加費として 500 円程度を集め、その一部を積み立てていた。今回の事業では不足分に充てる予定である。

〇委員

子どもたちに安全な食生活を送ってほしいという思いは理解した。参加人数はどの程度を見込んでいるか。

●考える会

マリンバ奏者の意向もあり、参加者との距離が近い会場として、ときわで開催することにした。

会のメンバーには子育て中の方が多く、昨年の開催負担も大きかったため、今回は小規模な開催とした。会場は 150 人から 200 人程度を想定している。マルシェには買い物だけでも来場してもらえればと考えている。

〇委員

正しい知識を伝えるため、表現には注意が必要である。「食べれば病気が治る」など、明確な根拠がない効果を示す表現は避けるべきである。

また、オーガニック野菜のミネラルが多いという点についても、科学的根拠を確認する必要がある。

●考える会

特定の野菜同士を比較して、一方がよく他方が悪いと伝える意図はない。

手軽なゆで野菜、冷凍野菜、カット野菜などとの比較については、栄養成分に関するデータを確認している。今回伝えたかったのは、こうした食品との比較である。

〇委員

今回の説明では、オーガニック野菜とそうでない野菜との比較と受け取られる可能性がある。話されている内容は、調理方法や加工に伴う栄養素の変化に関することではないか。

オーガニック野菜と一般の野菜を比較するなら、客観的なデータが必要である。専門家の意見も踏まえ、根拠を確認した上で情報を発信すべきである。

〇委員

開催目的は、安心・安全な食や環境への関心を高め、子どもたちのために行動する人を増やすことである。そのため、来場者数だけでなく、目的に沿った意識や行動の変化をどのように把握するかが重要である。スタッフを除いた参加者に対し、参加後の意識や行動の変化を確認するなど、事業効果を評価する工夫が必要である。

＜市長コメント＞

先ほども申し上げたが、ぜひこのような活動を広げ、取組を理解する人を増やしていただきたい。一方で、指摘があったように、「身体の不調に効く」などの表現には十分注意が必要である。国光先生は科学的な分析に基づく講演をされ、関連する書籍も出されているため、全く根拠がないということではない。こうした内容も学び、根拠を示しながら発信していくことが重要である。

また、「オーガニックとは何か」という点についても、明確に説明できるようにしておく必要がある。基本的には、化学肥料や農薬を使用せずに栽培されたものがオーガニックとされる。有機認証には、周辺からの農薬飛散や残留農薬への対応など、一定期間にわたる基準が設けられている。その基準についても示していくとよい。

最終的には、行政としても考えていくべき課題である。例えば岡山県では、県を挙げて有機農業を推進し、生産量の増加や農家への支援につなげている。農家が苦労しながら野菜や米を生産している現状を踏まえ、国や県、市もこうした取組を支援していく必要があると考える。

【６　閉会】

≪みずなみ未来部長より閉会のことば≫

以上